



春の日差しの中で卒業式 ～3年生の未来に幸あれ！～



3月2日(水)、暖かい春の日差しが学校を包む中で、3年生の卒業式が挙行されました。式場に入場してきた生徒はスーツや着物姿で、一段と立派に輝いて見えます。私は壇上で、一人ひとりの生徒が呼名され返事をする姿を見ながら、それぞれの高校生活のシーンを思い浮かべていました。1年生の頃は幼くて心配した生徒も、目には意思の光が宿り、正面を見据えにこやかに起立しました。式典の真っ最中でしたが、目に涙が浮かんできます。

こうして、76名の卒業生は期待と希望を胸に本校を巣立っていきました(式辞は裏面)。

式後、何人かの生徒と保護者が、校長室まで足を運んでお礼の挨拶に来てくれました。私たち教員はこの日を目指し、またこの日の幸せな彼らと保護者の方々の姿を見るために、教職を続けてきたといっても過言ではありません。3年生の未来に幸せあれ！



式後のHRで記念写真

「卒業を祝う会」 ～3学年の先生、お疲れさまでした！～



今だから言える？ 裏話を披露

卒業式の午後、校内では新型コロナ対策を行ったうえで、ミニ祝賀会「卒業を祝う会」を行いました。3学年担任の3名の先生をひな壇にすえ、3年間の思い出を語ってもらう飲食なしの懇親会です。まず、最初の生徒一人ひとりによるビデオメッセージが秀逸。「担任の先生の第一印象は?」「担任の先生について印象に残っている出来事は?」「担任の先生に一言」などの質問に対し、生徒は心のこもったコメントをしていました。中には、珍答や録画中のハプニングもあり、爆笑の連続。

また、担任の先生による3年間の話には心にしみるお話もあり、司会進行役の軽妙なボケも面白く、充実した会になりました。小規模地域校である本校の魅力の一つに、職員仲の良さと団結力があります。新型コロナ対策で、忘年会や送別会などの宴席がこの2年間すべて中止になり寂しい思いをしている中、職員一同久しぶりに心の底から笑ったひと時でした。



前日の準備風景

困ったお話(その61) (不審者撃退作戦)

私は麻績村にある【シェーンガルテンおみ】に住んでいる「おみネコ」よ。先週土曜日だったけど、朝ひなたぼっこしていると、軽トラが来て不審なオヤジが現れたの。そいつが私を見ていきなりスマホを向け写真を撮ってきたわ。困ったし、失礼ったらありゃしないので心の中で怒っていたら、いい作戦を思いついたの。わざと懐いたふりをしてオヤジの足にすり寄ったわ。奴ったら喜んで私を撫で『ネコちゃ〜ん、お〜よしよし』だって。バカじゃないの？

今だ!と思い、奴の足に爪を立てて「ガブっ」て思いっきりかみついてやったわ。奴ったら、奇声を発して逃げていった。おとといきやがれ!

以上、先週土曜日の出来事をネコの立場で報告しました。…イテテ。



式辞

1, 2月は近年にない雪と寒さに見舞われ、春を待ち焦がれる気持ちがいつもより強く感じられるこの頃です。本日、長野県蓼科高等学校令和3年度卒業式を挙げるにあたり、日頃本校の教育振興に格段のご高配をいただいております皆様へ、心より御礼申し上げます。(中略)

保護者の皆様方には、教職員を代表してお祝い申し上げます。お子様方は、今ここに力強く新しい社会へと踏み出される日を迎えられるようになりました。日頃のご苦労とご訓育が今ここに実り、この日を迎えられることに、心からお祝いの気持ちを表します。誠にありがとうございます。

そして、ただいま卒業証書を手に入れました76名の卒業生の皆さん、晴れのご卒業おめでとうございます。皆さんは、学校創立121年目の卒業生としてここに足跡を刻むことになりました。3年前に皆さんが、緊張した表情で入学式にこの体育館に入場してきた姿を昨日のように思い出します。まだ幼さが残っていたその顔も、3年後の今、目には意思の光が宿り、見違えるほど立派になりました。皆さんは1年次に台風19号豪雨災害、そして2, 3年次にはコロナウィルス感染症の猛威の中、とても苦労をしながらここまで歩いてこられました。最上級生になったこの1年でも、ポプラ祭と120周年記念行事の中止という大ピンチがありました。しかし皆さんは諦めずピンチをチャンスと捉え、全校ダンスと代替ポプラ祭を見事に成し遂げ全校を一つにまとめ上げました。加えて、5月30日には120周年記念行事の一環で、タイムカプセル掘り起こし企画を行い、21年前の生徒会役員の皆さんと交流するという、例年以上の企画を成功させました。皆さんは沢山の思い出とレガシーを、後輩と蓼科高校の教職員に残してくれました。ありがとうございます。

卒業式に際し、心にとどめていただきたい言葉を一つお贈りします。

それは「**結果だけでなく、伝わるものがあるんだなと思いました。**」という言葉です。

これは、先月の2月に北京冬季オリンピックのノルディック複合の団体及び個人で、それぞれ3位の銅メダルを獲得した渡部暁斗選手の言葉です。個人で彼は1, 2位選手との激闘を繰り広げ、1位との差を4秒から0.6秒まで縮めてゴールしました。欧米人に比べ足のストロークが短く、不利な体格の日本人がここまで食い下がったことは、大きな感動を呼びました。金メダルと同等だ、いやそれ以上の感動だと。その反響を知った渡部選手が残した言葉でした。

これは、これから歩む皆さんの人生と同じです。大切なのは地道な努力の積み重ねとあきらめない気持ちです。例えば皆さんが社会人になり就職した職場でいくら仕事をして、最初は成果が表れないことがあるかもしれません。実際おそらく大部分の人がそうでしょう。しかし、最善を尽くし努力したかそうでなかったかで、皆さん自身の心持ちと周囲の評価は全く違ってきます。最善を尽くせば、あなた自身に打開策が見つかるものですし、周囲が応援してくれます。仕事も以前よりやり易くなり、皆さんは人間的に成長し、よい結果は気にしないでも後からついてくることでしょう。「人生、努力の結果よりも努力で伝わるものこそが大切」と言い直してもよいと思います。

最後に、幸せは努力し続ける皆さんを絶対に見放したりしません。不幸だと嘆く時、それは、皆さん自身が自分の幸せを見放そうとしている時なのです。だからどんなに苦しくても、どんなにつらくても、決して自分からは、夢や希望や可能性を、そして自分自身を見放さないで生きて行ってほしいと願っています。卒業生の皆さんの輝ける未来、本日までご出席の皆さんのご多幸を祈念して卒業式の式辞いたします。

令和4年3月2日 長野県蓼科高等学校長 宮澤和人

